

オリブの会通信

2024年5月20日第42号 (通巻48号)
 オリブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: oribunokai@gmail.com
 facebook: oribunokai

مجموعة الزيتون

5月24日国際司法裁判所
 は、ラファでの戦闘の停止
 を命令した

**直ちに停戦を！ 占領軍はガザから撤退
 せよ！**

ICCの逮捕状

ICC (国際刑事裁判所) は、5月20日イスラエルのネタニヤフ首相とガラント国防相とハマスの3人の指導者に逮捕状を請求した。ICCの判断はイスラエルと同盟者、ハマスから反発を受けている。イスラエルはハマスと同列にされたことに怒り、ハマスは、実行者と被害者を混同していると怒り、この双方主義に批判が集まっている。現実を見れば誰がジェノサイドを行っているかは明確である。ICCに加盟している諸国では、逮捕される可能性がある。逮捕を表明しているのはノルウェーであるが、米国はそもそも加盟していない。ハマスは、1200人のイスラエル人を殺害したとされているが、これまで、報道でも明らかになっているのは、イスラエル軍が、ハマスの戦闘員とイスラエル人の人質を無差別に殺害したことで、イスラエル人の死者が増えているのであり、また、ハマスの戦闘員が子供を殺して首をはねたとか、強姦を行ったというのは、嘘であることが、イスラエル側の調査でも明らかになっている。イスラム国や、アルカイダと同列にすることで、ハマスの側の正義を否定する意図があることは明らかである。ハマスは、イスラエルによるパレスチナ占領に対する抵抗運動であって、イスラム国やアルカイダのイスラム原理主義と同一ではない。パレスチナのイスラム原理主義は、第一次インティファダまでは、イスラエルの占領と闘うよりは、パレスチナの民族主義、共産主義の無神論者に対する攻撃を行っていた。イスラム国も、アルカイダも、イスラ

エルを攻撃したことはなく、反帝国主義の立場にあったシリアやイラクを破壊して、イスラム原理主義国を確立しようとする運動であった。ハマスは文字通りイスラム抵抗運動であった。宗教上の原理主義を押し付けていない。ガザでもキリスト教徒が存在し、信仰の自由は守られていた。イスラエルは、イスラム教徒だけでなく、キリスト教徒に対する抑圧を行っている。ガザでの無差別の虐殺が行えるのも、ユダヤ教徒以外を人間とみていないからである。

ICJ国際司法裁判所は5月17日、18日と南アフリカが再びイスラエルのジェノサイドを訴えた、裁判でのイスラエルの主張は、「ジェノサイドはない。あるのは悲惨な戦争である」とジェノサイドを否定し、ハマスに責任を押し付けた。

しかし、エジプトをはじめ、多くの国が南アフリカの提訴を支持している。ガザでの悲惨な状況が報道されるごとに、南アメリカの提訴に参加国が増えている。イスラエルの後ろ盾である米国のバイデン政権は、ジェノサイドはない、ICCに報復すると主張した。

しかし、米国内では、コロンビア大学に始まった大学での停戦をもとめる学生運動が米国内に拡大した。また、米国政府内からもイスラエル支持に反対して、辞任する職員が続出している。11月に大統領選挙を控えるバイデンに対して、若者の支持が落ちてきていることに危機感を覚え、5月20日黒人の学生の多いモアハウス大学での卒業式で演説を行ったが、卒業生から抗議行動に直面

することに。

バイデンは、ジェノサイドを否定しながら、米国製の武器が市民の殺害しているとして、一時的な輸出の停止するポーズを示したり、臨時の港湾施設をつくって、人道援助が入るようにするとかのポーズは示したが、決してガザのすべての陸路の搬入ポイントの閉鎖を行っているイスラエルを動かすことはしない。検問所の外には、援助物資を積んだ大量のトラックが待機している。また、イスラエル人たちがヨルダンからガザに運んでいるトラックを止め、積み荷を破壊し、また、運転手に暴行を加え、トラックを燃やし、イスラエル警察も、軍もその暴挙をとめようとしていないことに、米国は沈黙し、イスラエルを支持している。

ついに、イスラエルの戦争内閣からネタニヤフを批判するものが出てきた。現在の国防相のガラントと元国防相ガンツから、戦後のガザの統治に明確な方針を持っていないと批判し、軍による支配は可能ではないと批判を行っている。また、国内では即時停戦と人質の解放を優先し、ネタニヤフの退陣を求める抗議行動が継続されている。それは、ネタニヤフが個人の権力維持のために戦争を継続しようとしているのが明確であるからである。イスラエルは、いまだにハマスの抵抗勢力を一掃できていないだけでなく、戦後のガザの統治についても、イスラエルの軍事支配を続けるという立場をとっている。米国などが主張する自治政府の統治下におくということも否定している。戦争の継続しか、そこには残っていない。**占領軍は、ラファへの攻撃を拡大。ラファ検問所を封鎖。**

イスラエル人が、ヨルダンカラム・シャロム検問所に向かうトラックを襲撃、援助の搬入を止めている。

イスラエルは、限定的なものとしながら、攻撃を拡大している。再び、病院などの攻撃を行い、80万人のパレスチナ人が他地域に逃れざるを得ない状況に陥っている。また、UNRWAなどの援助機関も、物資の搬入が止められていることや職員安全が確保できないなどで、活動を停止した。

また北部での攻撃を再開し、抵抗運動との戦闘が拡大されている。

イスラエル占領軍は、北部ガザを完全制圧と宣言したにも関わらず、ハマスが北部で再編しているとして、再びの北部の攻撃を始めた、ほぼ完全に破壊されているジャバリ難民キャンプを攻撃した。ハマスの抵抗勢力の一掃に成功していないことを示した。そして、ジャバリアキャンプのアルワディ病院を包囲し、攻撃し、病院のスタッフ、患者、そして、避難している人々を追い出した。停戦協議は、イスラエルの拒否で行き詰まり

5月6日にエジプトとカタールの停戦案をハマスが受け入れた途端、イスラエルは受け入れを拒否し、戦争を継続した。ハマスは停戦をもとめ、イスラエル占領軍のガザからの撤退を求めたが、イスラエルは、あくまで、ハマスを一掃するまで、戦争をやめないとした。これにはイスラエル内からも停戦を受け入れ、人質の解放を優先すべきという批判があがった。

広がる停戦をの求める、国際世論

連日報道されるガザでの人道状況に、国際世論の停戦をもとめる声が大きくなり、米国も、イスラエルに停戦を働きかけ、また、戦闘のにおいて市民の被害をすくなくするように働きかけをおこなったが、米国自身が、ハマスの一掃というイスラエルの目標を支持しているために、イスラエルを説得する力は存在しない。その中で、スペイン、ノルウェー、アイルランドが5月22日にパレスチナ国家を承認する意向であることを表明した。イスラエルは反発して、3国の大使を召還した。

ガザの戦後をめぐる矛盾

ハマスイまだに一掃されていないにも関わらず、戦争後のガザの統治について、議論がされている。米国は、ガザを改革されたパレスチナ自治政府に管理させると主張し、ネタニヤフは、ハマスであれ、ファタハであれ、戦後を管理させず、イスラエルの軍事支配を行うとした。しかし、この案に対して、軍の管理を継続することに、国防相が反対して、もっと明確な戦後の計画示すべきとネタニヤフを批判している。

米国は、アラブ諸国の多国籍軍での管理を言い出し、これをネタにサウジへの正常化への働きかけを再開している。

極右は、イスラエルが完全に支配し、パレスチナ人を追い出し、ガザでの入植地を復活させるように要求している。極右の支持者たちは、ガザへの支援物資の搬入を妨害し、物資を破壊し、トラックの運転手を攻撃し、トラックに火をつけた。イスラエル軍と警察は、阻止せず、傍観しているだけだった。

国際的な世論は、イスラエルが言うハマスの一掃は、不可能であり、パレスチナの主権を認め、2国解決方式を実現することを主張している。

イスラエルは、パレスチナ国家を否定しており、自治政府も否定し、主権を認めず、西岸でも実質的な占領軍の支配を行っている。この事実は、現在のイスラエル政府が、パレスチナの存在を認めていないことであり、アパルトヘイト体制を維持することで、パレスチナが自決権を行使することを否定している。

パレスチナのカコそが状況を切り開く

2国解決方式は、イスラエルが否定している状況においては、成立しない。現在の自治政府がイスラエルの手先として、パレスチナ人を弾圧する以上、存在価値がなく、イスラエル占領支配と今の現実が続く、また、イスラエルはそのようなパレスチナしか認めないことは明確である。

この占領支配を終わらせるためには、パレスチナの抵抗運動が統一し、占領軍を追い出すしかない。国際的には、イスラエル、米国を孤立させていくしかない。強い国際世論が、パレスチナの解放闘争を支援することが必要である。。



ガザの「軍事支配」に反対する国防長官としてイスラエル戦時内閣に亀裂

2024年5月16日

ガザ地区の戦後計画の欠如をめぐってイスラエル戦時内閣内で意見の対立が公の場で勃発し、ヨアヴ・ガラント国防相は戦闘が終わったらイスラエルはガザの統治に関与すべきではないと述べた。

ガラント氏は水曜日、イスラエル軍による統治やガザ統治の責任を取ることに反対すると述べた。

「繰り返しますが、私はガザにおけるイスラエル軍事支配の確立には同意しません。イスラエルはガザに文民支配を確立してはならない」と記者会見で語った。

現在の紛争が10月に始まって以来、ギャラント氏は「閣内で一貫してこの問題を提起しているが、何の返答も得られていない」と述べ、ベンヤミン・ネタニヤフ首相を叱責し、「決断を下す」よう求めた。

ネタニヤフ首相は、イスラエルが飛び地の治安問題に対する無制限の統制を維持する意向を示しているが、ギャラント氏の呼びかけに応じ、「ハマスタンをファタハスタンに交換する用意はできていない」と述べた。同氏は以前、ハマスが完全に敗北するまで紛争は終わらないため、戦争の「翌日」について話すのは議論の余地があると述べていた。

もう一人の戦時閣僚であるベニー・ガンツ氏はギャラント支持を表明し、ギャラントは真実を語っており、どんな犠牲を払ってでも国のために正しいことをするのが指導者の責任であると述べた。

アルジャジーラのモハメッド・ジャムジューム氏は、イスラエルによる同ネットワークの禁止を受け、ヨルダンのアンマンから記者として、「これは非常に重要な時期に戦争内閣のメンバーの間で亀裂が深まっていることをまさに示している」と語った。

極右閣僚らはギャラント氏に狙いを定め、その発言により彼はイタマル・ベン・グヴィル国家安全保障大臣と

オリーブの会通信 第42号(通巻48号)

ベザレル・スモトリヒ財務大臣の標的となった。

「10月7日に失敗し、今日も失敗し続けている防衛大臣。戦争の目的を達成するには、このような国防大臣は更迭されなければならない」とベン・グヴィル氏はX投稿で述べた。

スモトリヒ氏も同じくXに投稿し、「ギャラン国防大臣は本日、ホロコースト以来最も恐ろしいユダヤ人虐殺に対するテロとハマスの見返りとしてのパレスチナテロ国家樹立への支持を発表した」と述べた。

米国とイスラエルの骨折

ネタニヤフ首相は、2007年以来ガザを支配してきたハマスを鎮圧すると約束したにもかかわらず、戦後、ハマスの代わる組織について明確なビジョンを表明していない。現在、イスラエル軍が同地域で無制限の攻撃を強化し、ラファ南部から60万人が避難している中、国内の批判者や海外の同盟国、特に米国から、統治、安全保障、安全保障に関する計画を提示するよう圧力が高まっている。

ガザの将来をめぐる意見の相違により、イスラエルと米国の間で公的な摩擦が増大している。今週初め、アントニー・ブリンケン米 국무長官は国民の最も強い批判の中で、計画の欠如についてイスラエルを非難した。ジャムジューム氏は、最近の動向は「米国とイスラエルの関係に大きな亀裂が生じる」ことを予感させると述べ

た。

イスラエル野党指導者のヤイル・ラピド氏はネタニヤ氏がこう語った。政権は「コントロールを失った」。「米国との関係は崩壊しており、中間層も崩壊している」と述べた。「ガザでは毎日兵士が殺されており、テレビでは兵士同士が争っている。内閣は分解されており、機能しません。閣僚らは閣議前で抗議する。」

月曜日の時点で、戦争開始以来、ガザとパレスチナ自治区との国境沿いではイスラエル兵272人が死亡、1674人が負傷した。イスラエル軍は木曜日、ガザ北部で兵士5人が死亡し、「同士討ち」によるものだと発表した。

同当局は声明で、水曜日の事件で兵士7人が負傷したと発表した。予備調査によると、その地域にいた2台のイスラエル軍戦車がイスラエル大隊の副司令官が使用していた住宅に発砲したと軍は発表した。

ハマスの政治局長のイスマイル・ハニヤ氏は水曜日、ガザの戦後の将来をめぐる議論に応じて、「ハマスの運動はここに残る」と述べた。

出典：アルジャジーラおよび通信社



2024年5月8日 管理者 ニュース
パル市民社会_学生MVMT - PDF

2024年5月6日

立ちあがる学生運動へ：

以下に署名したパレスチナ市民社会団体は、逆境に直面しながらもパレスチナと連帯し、正義とガザ

で進行中の虐殺の終結を主張する米国および世界中の勇敢な学生たちに深い感謝と揺るぎない支援を表明する。

パレスチナは私たちの世代にとってリトマス試験紙となっています。パレスチナのために立場をとることは、植民地化、人種差別、軍事化に反対することです。今この瞬間も、アメリカは大量虐殺に立ち向かっています。公民権運動からベトナム時

代の反戦デモに至るまで、学生運動は常に歴史の正しい側にありました。正義、人権、パレスチナ解放に対する皆さんの揺るぎない取り組みは、世代や地域を超えた革命の伝統を引き継いでいます。

今日、あなたは再び歴史を作ります。あなたたちの野営地、投資引き上げの呼びかけと要求、共謀しているイスラエルの大学との組織的関係の切断、その他の戦略的かつ原則に基づいた形態の抗議活動は、有害な現状に実質的に挑戦し、入植者の植民地主義に加担している組織の基盤を揺るがしています。あなたの行動は、草の根活動の力と、正義を求める集団闘争における団結の重要性の証です。

アメリカ警察の残虐行為とイスラエル占領軍との相互関係を無視することはできない。共同訓練プログラム、戦術の交換、軍事情報や装備の共有など、両国の緊密な関係は、米国の疎外されたコミュニティとパレスチナのパレスチナ人を標的とする暴力と抑圧の連鎖を永続させている。アメリカの大学の寄付金は、アメリカとパレスチナの両方での国家暴力に数十億ドルを投資し、入植者の植民地主義、アパルトヘイト、大量虐殺から利益を得ています。私たちがよく知っている弾圧と暴力に直面して、大学の共謀を拒否する皆さんの勇気を称賛します。

何十年もの間、私たちパレスチナ人は、イスラエル入植者の植民地主義の結果として、占領、剥奪、強制退去という残酷な現実と直面してきました。大学関係者、政治家、メディアは、私たちの大義の注意をそらし、誤った枠組みを設けようとしています。彼らは、抗議活動の原因ではなく、学生としての皆さんと、抗議活動が引き起こしている混乱に焦点を当てています。彼らは大量虐殺からの離脱を求める学生たちの要求を考慮するのではなく、抗議活動参加者自身を中傷することで責任を回避している。皆さんの蜂起はこれらの勢力の拒絶であり、先住民の主権を求める呼びかけであり、私たちが闘いを断固として貫く力の源です。警察による極度の残虐行為や、シオニストとその同盟者による身体的および言葉による暴行に直面しても、あなたたちは強いままで。解放への道は直線的ではなく、私たちは今後

も複数の戦術を通じて私たちが分断しようとする強力な試みに直面するでしょう。お互いを思いやり、守り合うコミュニティの力は、私たちが団結して立っていることを思い出させます。あなたの決意は光であり、この大量虐殺を終わらせ、すべての人に正義を達成するために私たちができることは何でもしなければならぬことをすべての人に思い出させてくれました。あなたはパレスチナと世界中に希望を与えてきました。

パレスチナ市民社会として、私たちはあなたたちを見て、あなたたちの闘いが私たちの闘いであり、私たちの解放が相互につながっていることを理解して、すべての要求が満たされるまで継続するよう求めます。

ありがとう。

強さと団結力において、

アダメール囚人支援・人権協会

ビサン研究開発センター

MIFTAH - 世界的な対話と民主主義の促進を目指すパレスチナのイニシアチブ

パレスチナ公共外交研究所 (PIPD)

サビール

農業労働委員会連合 (UAWC)

女性法律扶助・相談センター (WCLAC)





パレスチナ人は抵抗を通じて自分たちの未来を築いている - ムスタファ・バルグーティ博士

2024年5月12日の記事、
ムスタファ・バルグーティ博士。(写真:ヌラ・テープ、
パレスチナクロニクル)
ヌラ・テープ著 - パレスチナクロニクル

「パレスチナの入植植民地制度を完全に解体しない限り、私たちは真の自由と真の平和を手に入れることはできないでしょう。」
パレスチナ立法評議会議員のムスタファ・バルグーティ博士は、パレスチナをすべての人に平等な権利を持つ一つの民主主義制度を持つ一つの国としてしか見ていないと述べ、パレスチナ人民の抵抗がすでに未来に貢献していると付け加えた。

「パレスチナ人の抵抗と現場の人々の不屈の精神、特に今、民族浄化を行うというイスラエルの意図を裏切ったガザ地区の人々の不屈の精神が、パレスチナ人の未来を作っていると思います」と彼は述べた。日曜日にヨハネスブルグで開催されたパレスチナ反アパルトヘイト世界会議の傍ら、パレスチナ・クロニクル紙に語った。

同氏は、「当面の課題」は「我が国国民の大量虐殺を止めること」だと強調した。

「私たちは自由と尊厳を達成するための非常に重要な闘いの中にあると思います。私はパレスチナを、すべての人に平等な権利を持つ一つの民主主義制度を持ち、パレスチナ人が自由と尊厳だけでなく繁栄も享受できる一つの国としてしか見ていない」とバルグーティ博士は強調した。

1948年のイスラエル建国以来、「15万人を下らないパレスチナ人」が殺害され、「ガザだけで4万2千人」であると同氏は述べた。

大量虐殺とファシズム

「私たちは今、大量虐殺だけでなく、集団懲罰や民族浄化行為だけでなく、ファシズムにもさらされている」と強調した。「だからこそ私は、パレスチナの入植植民地制度を完全に解体しない限り、真の自由と真の平和は得られないと言うのです。」

パレスチナが「南アフリカの瞬間」にあるという会議で共有された感情について見解を求められたバルグーティ博士は、「私はこの戦争の前から常にそう思っていた。私たちはまさに80年代の南アフリカと同じ場所にいます。」

彼は次のように説明した。「当時は、こんなに早く終わるとは誰も思っていませんでした。そしてそれがまさに私たちの状況だと信じています。」

さらに同氏は、現在の反アパルトヘイト運動の高まりは「それ自体が歴史の中で私たちがどの位置に立っているのかを示すものである」と述べた。そしてこの世界革命…前例のないパレスチナ人との大きな団結は、私たちがどこに向かっているのかを示す非常に強力な指標です。」

反アパルトヘイト会議は「パレスチナ人民に対する犯罪の責任をイスラエルに問い、国家の解体に取り組むための世界的な反アパルトヘイト運動の動員の基礎を築く」ことを目的として日曜日に閉幕した。

3日間にわたって開催されたこの会議には、20カ国以上から市民社会、宗教団体、連帯運動を代表する代表者が出席した。

(パレスチナクロニクル)



2024年5月19日

の報告書のオンライン版にも「明確化」声明を追加した。

イスラエル人権擁護医師団の報告書は、10月7日に集団強姦に関するイスラエルの誤った主張を広める上で重要な役割を果たした。

イスラエルの人権団体は、10月7日にハマスの戦闘員による組織的な性暴力作戦に関するイスラエルの証拠のない主張に対する支持を撤回している。

11月にイスラエル人権擁護医師団が発表した「立場書」は、数カ月にわたりイスラエルのプロパガンダ活動家らにとって重要な論点として機能してきた。

「女性、男性、子供に対して行われた暴力には、広範な性的およびジェンダーに基づく犯罪も含まれていることがますます明らかになっている」と意見書は主張している。

しかし現在、人権団体はその無責任な主張がもたらした損害から免責されることを目指しており、ガザでのイスラエルによる虐殺を正当化し、煽動するために利用されてきた虚偽だらけの報告書を発表した理由について正当化と言いつけている。

「11月に立場書が発表されてから数か月間で行われた広範な調査では、その中で言及されている証言の一部に異議が唱えられたり、検証不可能であるとみなされており、今後さらに多くが同様の精査にさらされる可能性がある」とイスラエル人権医師団は述べた。同社は11月

同団体は「意見書に彼らが含まれたことを遺憾に思う」と述べ、「現在入手可能な情報のかなりの部分は、この文書が最初に起草された時点ではアクセスできなかった」と主張している。

メンツを保つ都合のいい解釈

人権イスラエル医師団も、11月の文書で主張したような「徹底した有能な調査を実施するために必要な十分な人員、資源、専門的ツールが不足している」ことを認めている。

同団体は現在、その呼びかけが「専門機関、紛争下での性暴力に関する事務総長特別代表プラミラ・パッテン女史率いるチームによる調査を促す」のに役立った、と主張している。

ただし、これは単にメンツを保つ都合のいい解釈にすぎません。

イスラエルとその宣伝活動家は、パッテンチームが3月初旬に発表した報告書を、彼らの大量強姦の嘘に対する国連の支持であるかのように誇示したが、これは国連の執筆者らがイスラエルの主張に信憑性を与えようとして後ろ向きに曲がったことで容易になった。

しかし、パッテンチームには独立した調査を実施する

オリープの会通信 第42号(通巻48号)

権限はなく、ユダヤ過激派グループ ZAKA などの実証済みの嘘つきや捏造者を含むイスラエルおよびイスラエルの組織から提供される情報にほぼ全面的に依存していた。

そして実際、国連報告書が主流メディアでどのように報道されたかにもかかわらず、電子インテリファーマー・ライブストリームの最近のエピソードで私たちが実証したように、パッテン・チームは結局、性暴力に関連した最もセンセーショナルなイスラエルの主張の多くが誤りであることを暴くことに成功した。

例えば、国連チームのメンバーはイスラエルから提供された数千枚の写真とビデオを調査し、「レイプの具体的な兆候は特定できなかった」と結論付けた。パッテンのチームはまた、キブツ・ベエリで起きたとされるイスラエルの残虐行為の最も広く流布されセンセーショナルな主張の一部が「根拠がない」ことを認めた。

「全体として、調査団はキブツベエリで性暴力があったかどうかを立証できなかった」と国連報告書は述べているが、国連調査団が信頼できる証拠を何も見ていなかったという事実を隠すために計算された寛大な文言だ。

パッテンは避けます

当初はイスラエルに利用されることに喜んでいたものの、独立した俳優ではなく国連事務総長の政治任命を受けたブラミラ・パッテンは、現在ではテルアビブの残虐行為プロパガンダの国連の顔となることを避けているようだ。

最近までイスラエルの最愛の人だったパッテン氏は、先週ニューヨークで「10月7日のイスラエルでの人質をイスラエルの心理的手段として非難する」と題された米国政府主催の国連安全保障理事会会見を欠席し、大量虐殺政権の外交官らを不快にさせたようだ。テロ。”

セッションはパッテン氏なしで進められ、予想通り、根拠のないレイプ主張を含むイスラエルの残虐行為プロパガンダの場として利用された。

国連報告書の陰に隠れる

イスラエル人権医師団は、11月の無責任な報告書を撤回しながらも、「トラウマ的記憶の断片的な性質により、

それらは不完全、混乱、または矛盾した形で表現されることが多い」と主張している。したがって、これは正確ではなく、証人の信頼性を評価するために必要な専門知識やツールを持たない人にとっては単純なものではありません。」

「従って、我々は今後、パッテン報告書と、可能であれば、有能な捜査機関が作成した追加の報告書や文書に依存することになる」と同団体は述べている。「私たちは、必要な専門的な結論を導き出しながら、彼らの調査結果と報告を引き続き監視していきます。」

他にどのような「有能な捜査機関」があるかは不明信頼できる独立した調査が行われていないことが知られているため、「人権のため」はイスラエルのことを指しているのかもしれない。

広く宣伝されていた取り組みの一つ、10月7日に性犯罪容疑を調査するいわゆる「民事委員会」が、イスラエルのメディアによって詐欺であることが暴露された。

このようにパッテン報告書の背後に隠れることは、イスラエル人権擁護医師会が当初広めるのに協力したが、現在では有害な嘘であると認めた残虐行為の真実を暴くのにその仕事が役立ってきた独立系ジャーナリストの役割を拒否することに等しい。

イスラエル人権擁護の医師らはむしろ、イスラエルの嘘を暴くのに特別な専門知識は必要なかったし、パッテン氏の「専門」チームが調査結果を確認するまでに、独立したジャーナリストたちが長い間それを行っていたことを認めるべきである。

それは、証拠、または証拠の欠如に一貫した注意を払い、集団のせん妄に巻き込まれないようにするだけでした。

少なすぎる、遅すぎる

ガザでのイスラエルによる大量虐殺（イスラエル人権擁護の医師団は未だにこの言葉の使用を拒否している）が7か月以上続いた後、同団体は「イスラエル政府やその他の組織が性的暴力の報告を操作的かつ冷笑的な方法で利用してきた」ことを認めた。」

さらに、「性暴力と性暴力の申し立ては、戦争やプロ

パガンダの手段として決して武器化されてはならない」と付け加えた。

少なすぎる、遅すぎる！

イスラエルの組織であるにもかかわらず、長年にわたり、イスラエル人権擁護医師会が、イスラエルによる告訴も裁判もなしに投獄に対して長期にわたるハンガーストライキを行ってきたパレスチナ人を支援する上で一貫した役割を果たしてきたことは認められるべきである。

イスラエル人権医師会が長年にわたるその活動を通じて築き上げてきた信頼と信用は、深刻な、おそらく致命

テルアビブ政権に代わって大量虐殺、反パレスチナ残虐行為のプロパガンダを広めたイスラエルの役割に対するこの部分的かつ適格な罪によって、人権擁護の医師たちイスラエルの評判が受けた損害は、もし修復できるとしても、修復されることはないだろう。

集団強姦告発 人権擁護の医師団 - イスラエル残虐行為のプロパガンダ
アリ・アブニマのブログ



モーリーン・クレア・マーフィー
権利と説明責任 2024年5月16日

5月14日、ガザ地区中部ヌセイラト難民キャンプにある避難民パレスチナ人を保護する学校に対するイスラエル軍の空爆現場。オマール・アシュタウィ APA の画像ナクバ（1948年5月のイスラエル国家宣言中、その後に行われたパレスチナの剥奪）は進行中のプロセスであり、ガザで進行中の大量虐殺は植民地暴力の激化を表している。

アルハク、アルメザン、パレスチナ人権センターという3つの著名なパレスチナ人権団体が水曜日、そう述べた。

水曜日は、74年前にパレスチナ人口の約80パーセントに相当する80万人のパレスチナ人が故国から民族浄化されたことを記念する毎年恒例のナクバの日だった。

アラビア語の「ナクバ」は「大惨事」を意味し、パレスチナ人が1948年からそれ以来ずっと闘ってきた、押し寄せる避難、虐殺、土地の収奪の波を表す言葉である。

イスラエル指導者らはガザに新たなナクバ画到来したと公然と脅しており、このことは、ベンヤミン・ネタニヤフ首相率いるリクード党に所属するイスラエル国会議員アリエル・カルナー氏の言葉を借りれば、「48年のナクバを覆い隠すもの」となるだろう。

パレスチナ人権団体が観察しているように、今日のガザにおけるイスラエルの排外主義的暴力は、イスラエルの国家イデオロギーであるシオニズムの論理の延長である。パレスチナの地にその入植者植民地計画を押し付けるには、常に武力の行使が必要とされてきた。

シオニズムは、他のすべての入植者植民地計画と同様に、先住民族を外国人入植者に置き換えるために土地から先住民族を排除することを前提としている、と団体は指摘する。

ヨルダン川西岸とガザに関する国連特別報告者のフランチェスカ・アルバニーズは、今日のガザで行われているような大量虐殺は、入植者植民地主義の「ダイナミックで構造的なプロセス」の頂点を表していると述べた。

オリーブの会通信 第42号(通巻48号)

イスラエルによるガザ地区での広範囲にわたる破壊は、住宅、学校、病院、水道施設や衛生施設の破壊を含め、その領土を居住不可能にし、その結果住民を強制的に退去させ、二度と戻らないようにすることを目的としている。

「自主移住」

この結果はネタニヤフ首相の与党連合の政治家らによって支持されている。

火曜日、数千人のイスラエル人がいわゆる独立記念日を祝い、ガザへの入植とパレスチナ人の追放を求めながらガザ北部交差点に向けて行進した。

イスラエルの極右国家安全保障大臣イタマル・ベン・グヴィルは、婉曲的にガザ地区への人道援助の移転には反対すると述べながら、ガザからの「自発的移住」の奨励を求めた。

月曜日、イスラエル人は、ヨルダン川西岸を通過中で、飢餓が拡大しているガザ地区に向かう人道物資を運ぶトラックを攻撃した。

運転手の何人かは殴られ、約15台のトラックが損傷し、中身が取り出された。トラックの積荷の一部は、破壊されました。

今週の別の事件では、ヨルダン川西岸のイスラエル人入植者がパレスチナ人のトラック運転手をガザに物資を輸送していると誤解したために殴打した。

一方、英国に本拠を置く研究グループ「フォレンジック・アーキテクチャー」によると、ガザではイスラエル軍が1月以来、援助を求める民間人、援助車団、人道援助要員、援助インフラを少なくとも80回以上攻撃している。

「こうした攻撃の頻度と広範な性質は、イスラエルが援助を組織的に狙っていることを示唆している」とフォレンジック・アーキテクチャーは述べた。ベン・グヴィル氏はその発言に対してイスラエルの軍事・政治体制の一部から非難を浴びたが、ガザにいるパレスチナ人の生命を維持する手段を否定することが政策であることは明らかである。

しかし、これは大量虐殺の意図を示すものであるため、

イスラエルの指導者らはそれを大声で言うことを躊躇している。イスラエルにとって、ベン・グヴィルのような人物が明白な目的を公然と述べなければ、国際司法裁判所とハーグ国際刑事裁判所の両方の監視下に置かれることは容易になるだろう。

精密誘導ミサイル

イスラエルの援助に対する攻撃のすべてではないにしても、その多くが意図的なものであることに疑いがあるとすれば、ヒューマン・ライツ・ウォッチは2023年10月以来、援助従事者に対する8回のストライキを記録している。保護。”

これらの攻撃では、ストライキ時に一緒にいた人たちとともに、31人の援助関係者が死傷した。

殺害された人々の中には、数十年にわたってガザで活動してきたアメリカ人道支援団体アネラの補給・物流コーディネーター、ムーサ・ショーワ氏も含まれている。

シャワさんは3月8日、ガザ市の自宅から逃亡後、ガザ中部の町ザワイダで家族が滞在していたアパートの2階に精密誘導ミサイルとみられる攻撃が命中し、死亡した。

シャワさんとともに、彼の義理の弟バハ・アル・ギフリさんは即死し、シャワさんの6歳の息子カリムさんも負傷がもとで数日後死亡した。

イスラエルの指導者や報道官は、10月に自由に吐き出した公然と大量虐殺の脅迫をトーンダウンし、世界の聴衆に向けて、彼らの戦いはガザ住民ではなくハマスと言いたいようだ。

これらの主張は現場の現実と矛盾しています。

10月7日以来、ガザでは3万5000人以上のパレスチナ人が殺害され、さらに1万人が行方不明となっており、人口の大部分が故郷を追われ、その多くはもはや存在していない。

イスラエル軍は現在、数カ月前にハマス部隊を解体したと主張する地域でパレスチナ抵抗勢力と激しい戦闘を繰り広げている。

パレスチナ日誌

10月11日

- ・ 占領軍：我々は国境のフェンスを完全にコントロールしている。
 - ・ 占領軍：ジキムのレジスタンス戦士を標的にした主張。
 - ・ ハニエ：戦争が終わるまで捕虜問題は論議しない。
 - ・ ガザと西岸で788人の殉教者と4100人の負傷者
 - ・ 占領軍はラファ検問所を爆撃
 - ・ ヘブロン南部で入植者の襲撃を受け、市民とその妻、子供が打撲を負った。
 - ・ ガザで2人のハマス政治局員が殉教
 - ・ アル・アロウブでの占領軍との衝突で、負傷者
 - ・ 占領軍の戦艦がガザの港を爆撃し、漁師の船を破壊した。
 - ・ 占領軍：戦車で、ヒズボラの監視所を攻撃した。
 - ・ 占領軍は、レバノンからのミサイルで、軍用車が標的にされたことを認めた。
 - ・ ベツレヘムの北の占領軍との衝突で、子供が負傷し、多数が呼吸困難に
 - ・ イスラエルはハーンユニスを砲撃した。
 - ・ ヒズボラは占領軍の車両を破壊
 - ・ ベイトアイヌン交差点で、占領軍と若者が衝突
 - ・ ベツレヘムの南、アルハデールで占領軍との対峙
 - ・ ベイトウマールの衝突で、実弾で二人の青年が負傷。
 - ・ 占領軍が、デュラ病院の周辺を攻撃し、衝突が行った。
 - ・ ジェニンの北部で、占領軍の銃弾で二人が殉教、2人が負傷
 - ・ ジャバリヤとデールアルバラへ爆撃で多数の殉教者と負傷
 - ・ ベツレヘムの北部で青年が占領軍の銃弾で負傷
 - ・ キリヤト・アルバの入植者が市民の家を銃撃。
 - ・ シリワンの町で二人の殉教者。
 - ・ 米国国務長官がイスラエルに急いで到着した。
 - ・ ベツレヘム県で、諸都市、村、難民キャンプで非常委員会の形成が呼びかけられた。
 - ・ 公式に、米国特殊部隊がイスラエル軍を支援
 - ・ ガザで31軒の家がイスラエルによる襲撃さら、多数の殉教者
 - ・ イスラエルはガザの70以上の標的を爆撃したと発表。
 - ・ 保健省：ガザへのイスラエル侵略で、950人が殉教し、5000人が負傷した。
 - ・ 占領軍は、ヘブロンとベイトウマールの中心部で、逮捕キャンペーンを開始した。
 - ・ 戦争の開始以来、350人のイスラエル人が行方不明と報道
 - ・ ガザの650人の労働者がラマラに
 - ・ 米国は、20人の市民が行方不明
 - ・ 南部レバノンからミサイルが発射された
 - ・ 占領軍は、レバノンへの攻撃を行った。
 - ・ イスラエル軍機はガザのイスラム大学を標的にした。
 - ・ アルカセム旅団は、アシュケロンをミサイル攻撃したと発表。
- ## 10月12日
- ・ 5日目、1050人以上の殉教者と5000人の負傷者
 - ・ クスラで占領軍と入植者の銃弾で、4人が殉教し、11人が負傷
 - ・ アル・カセム旅団がテルアビブのベングリオン空港を爆撃
 - ・ 国連：ガザの行き場のない人々は33万8千人に

- ・ 西岸で、逮捕と捜索の大規模なキャンペーン
 - ・ 占領軍は、10人の市民をヘブロンで逮捕した。
 - ・ ガザの殉教者は、1354人に
 - ・ エジプトはラファ検問所を閉鎖を続けている
 - ・ イスラエルはガザへの人道援助を拒否
 - ・ イスラエル：アルアクサ洪水作戦が始まって以来1300人のイスラエル人が殺された。
 - ・ エジプト情報筋は、イスラエルが停戦を受け入れ、ガザに援助を持ち込むことに難色を示していることを明らかにした。
 - ・ 保健省：負傷者の数がガザの病院のキャパシティを超えている
 - ・ イスラエルは、ダマスカス、アレppoンの周辺を爆撃した。
 - ・ ホワイトハウス、ハマス攻撃時の残虐行為疑惑に関するバイデン氏の発言を撤回
 - ・ 占領軍はあらたな虐殺、北部ガザのシハブ一家の44人を殉教者にした
 - ・ ガザの殉教者は、1417人に
 - ・ 占領兵士は、ヤッタの東で、トラックを銃撃、入植者が学校を燃やそうとした。
 - ・ ラマラの北東で占領軍の銃弾で、女性が殺され、彼女の子供が負傷した。
 - ・ クネセツは、戦争政府をつくることを承認
 - ・ エルサレムで、殉教者と2人の警官が負傷した。
 - ・ イスラエル軍のガザ市西と中央ラファへの爆撃で多数の殉教者と負傷者
 - ・ ヒズボラのミサイルで兵士の一人が殺された。
 - ・ レバノンは、イスラエルの爆撃を国連安保理に提訴
 - ・ イスラエルは1400人の死者
- ## 10月13日
- ・ カルキリヤで、占領軍の銃弾で二人が死亡
 - ・ シナイのベドウィンがトラックを燃やして、イスラエルのガザでの虐殺を非難
 - ・ 国連：イスラエル軍は、110万のガザの人々に南部に移動するように予備kじゃけている。
 - ・ 英国は、2隻の海軍艦船とスパイ機をイスラエルの支援のために派遣
 - ・ カフル・アルディクで、入植者のによってはじめられた攻撃に人々が対峙している。
 - ・ 7日目の侵略で1537人の殉教者。
 - ・ ハルール襲撃で市民3人が負傷、若者1人が逮捕される
 - ・ デヘシヘ・キャンプで若者が占領軍の銃弾により負傷し、他2人が逮捕された。
 - ・ 侵略の7日目... ガザ地区で未明から100人以上の殉教者と約1000人の負傷者
 - ・ 占領軍によるアズン襲撃で3人が実弾で負傷
 - ・ アッバス大統領がヨルダンの首都でプリンケンと会談
 - ・ エジプトは、イスラエルのガザの人々に家を離れ、南に行くようにという呼びかけを拒否
 - ・ イサウィヤの町で占領軍の銃撃で、青年が殺害された。
 - ・ 南部レバノンで一人のジャーナリストが殺され、3人が負傷。イスラエルが標的にした結果。
 - ・ ヒズボラは、イスラエルの拠点の攻撃の責任を発表。
 - ・ 人権監視：イスラエルはレバノンとガザで白りん弾を使用
 - ・ カルキリヤで占領軍へ銃撃

10月14日

- ・ 占領軍は、ヤバド、ジェニンの南のツラの村の二人の青年を逮捕した。
- ・ ヘブロンで占領軍との対峙で実弾で子供が負傷した。
- ・ 占領軍は、ジェニンの西、ルマアナで家々と複数の車両に銃撃した。
- ・ ワシントンとカイロは、外国市民をガザからエジプトに退避させることで合意に血書している。
- ・ 占領軍は、イサウィヤの青年を処刑した。
- ・ イサラエルのガザへの一連の攻撃で、殉教者と負傷者
- ・ ジェニンで、占領軍と抵抗戦士との間で交戦
- ・ 占領軍は、ヘブロン、ダハリヤ、アルーサム、デュラを襲撃し、7人の市民を逮捕した。
- ・ イスラエル軍の継続的な爆撃で、256人の殉教者

10月15日

- ・ ジェリコでの占領軍との対峙で、青年が殺害された。
- ・ 保健省：2215人の殉教者と8714人の負傷者
- ・ 国境のない医師団、ガザでの無差別な暴力と集団的制裁を止めなければならない。
- ・ UNRWAは、ガザと北部から撤退、ガザの当局者たちは、非難
- ・ 南部レバノンでの衝突
- ・ テルアビブで、ネタニヤフの解任とガザの捕虜の解放をもとめるデモ
- ・ UNRWAは、イスラエルに国連の建物に避難している市民を守るように主張
- ・ 米国は、二隻目の空母を地域に送った。
- ・ イスラエルRの侵略9日目、ガザで、2329人の殉教者。北部で緊張が高まる

10月16日

- ・ 国際アムネスティ：イスラエルはガザで白りん弾を使用している。
- ・ ネタニヤフ：ガザの戦争は、ハマスが取り除かれるまで終わらない
- ・ ベツレヘムの東で、入植者たちは、農業部屋を取り壊し、入植地道路を建設した。
- ・ プリンケン2回目のイスラエル訪問
- ・ UNRWA ガザへの侵略第一週目で100万人が追い出された。
- ・ ナブルスの南での入植者たちの攻撃の結果、二人が呼吸困難となった。
- ・ アナトット難民キャンプで、ガザの労働者の多数を裁判も法的手続きなしに拘束した。
- ・ イスラエル軍は、ヒズボラの軍事拠点を攻撃
- ・ ヘブロンで、入植者たちは、市民を攻撃し、そのうちの一人は家族を殺すと脅かされた。
- ・ カナダの諸都市で、3万人のデモ
- ・ アムステルダムで大規模なデモ
- ・ アルーアロウブキャンプの近くで、占領軍の突撃で4人の市民が負傷
- ・ 占領軍は、南部地区のハマスの治安部隊の司令官を暗殺したと発表
- ・ アップース：双方の市民の殺害は、遺憾であり、ハマスの行動は、我が民衆を代表していない。
- ・ バイデン：ハマスの拘束されている人質を見つけるR・
- ・ ジェリコでの殉教者、ツルカラムで負傷から死亡
- ・ 西岸の逮捕キャンペーンで3人のジャーナリストを含む多くが逮

捕された

- ・ ヘブロンで、逮捕キャンペーンで22人の市民を標的にした。
- ・ イスラエル「：午前9時からの5時間の停戦
- ・ ガザの本部への爆撃で5人の市民防衛が死亡
- ・ イスラエルは、北部国境の28の入植地を避難する決定をした。
- ・ ジェリコで、家を包囲したあと占領軍は2人の青年を逮捕
- ・ ネタニヤフは停戦と援助をガザに入れることを否定した。
- ・ ベルリンで、ガザの戦争に反対してデモ
- ・ ヘブロンで、入植者たちが占領国の旗を掲げた。
- ・ カセム旅団のロケットがクネセツを中断させた。
- ・ 侵略の10日目、殉教者は2800人を超え、さらにがれきの下に行方不明者
- ・ プリンケン、イスラエルの戦争内閣に参加。
- ・ エルサレムの包囲の中で、逮捕と召喚。
- ・ フランスは、人民戦線の政治局員マリアム・アブダッガを自宅軟禁にした。
- ・ ウィーンで、首相事務所の前で大規模なデモ
- ・ ジェニンの西でカバティアの青年が占領軍の銃弾で死亡
- ・ アル・コツ旅団がエルサレムを爆撃
- ・ 占領軍は、ガザ周辺の入植地で500人の遺体身元を確認。
- ・ 新聞：アメリカ軍は、イスラエルの支援のために展開する可能性のため2000人を選抜した。

10月17日

- ・ イスラエルは、エルサレムのラス・アルーアムドに入植地を作ろうとしている。
- ・ 侵略の11日目、ラファとハーンユニスでの二つの虐殺で、数十人の殉教者と負傷者。
- ・ 指導者たちと50人のガザの労働者が逮捕され、ハルフルの襲撃で少年が殺害された。
- ・ ベツレヘムで、占領軍は、13人の市民を逮捕した。
- ・ エジプト当局、人道支援トラックをラファに誘導する指示を出す

10月18日

- ・ 占領軍我々は、ガザにあるハマスとイスラム聖戦の200以上の軍事施設を爆撃した。
- ・ イスラエル軍は南部レバノンを爆撃
- ・ 侵略の11日目、殉教者は、3000人を超えた
- ・ 入植者たちは、サルフィットの西の古木を根こそぎに死、ブルドーザーで更地にした。
- ・ ジェノサイド-占領軍によるガザのアラブ国立病院爆撃で500人以上の殉教者
- ・ カルキリヤで占領軍との対峙で2人の負傷者
- ・ エルサレム市でも対峙
- ・ 声明ファタハは国家目標から羅針盤をずらすことに警告を発する
- ・ ヨルダン、バイデンとのサミットをキャンセル。
- ・ 占領軍はヘブロンで20人の市民を逮捕
- ・ 戦争12日目、ジャバリヤ、ハーンユニス、ガザ市で数十人の殉教者。
- ・ 西岸各県で全面ストが広がる
- ・ アイダキャンプで13人の市民が逮捕された。
- ・ バイデンが空母3隻と海軍歩兵の到着と同時にイスラエルに到着
- ・ イスラム聖戦イスラエルは病院爆破について嘘をつき、矛盾した説明をする
- ・ 保健省：ガザの運強者は3300人。
- ・ 占領自治体は、4軒のアートと商業施設を取り壊した。

Nablus パレスチナの歌

パレスチナ、あなたは魂です (Falastin Ant Alrouh)

モハメド・アサフ



パレスチナ、あなたは魂です
パレスチナ、あなたは魂であり目です
パレスチナはあなたの土地のようなもので
す。

私たちが会ったあなたの非難についてのパレ
スチナ

パレスチナ、私たちは目であなたを犠牲にし
ます

パレスチナ、あなたは魂であり目です
パレスチナはあなたの土地のようなもので
す。

.....
.....

ようこそ、神よ、そしてようこそ... オリジ
ナルと録音された

この畏敬の念を起こさせるパレスチナ
人... 世界で誰が無知ですか？

.....

パレスチナ人、私の名前はカフィです.. そ
してケフィーヤは私の肩の上にあります。

そしてその言葉が私の唇に出たら.... 全世
界が止まるだろう。

へい、へい、へい、神、へい、へい
.....

パレスチナ人.. 私たちはパレスチナ人です
ナシミ と ナシミア・ヴドワが ナシミ と ナ
シミア* の土に還る

彼らがいなくなったとは言わないで.. 私の子
供たちの腕から。

家には友達がいる... 私たちは家の友達です

いなくなったなんて言わないで...異国で、い
なくなったなんて言わないで

彼の傷を癒しましょう... あなたの心、祖国、
彼の傷を癒しましょう

*ナシミとナシミアはサウジの方言で使われる俗語で、「友人」
または、「同僚」を意味します。人々間の親密な関係を説明する
ためによく使われる

歌は、youtube で検索してお聞きください。

モハメド・アサフは、「アラブ・アイドル」の第二シーズ
ンで優勝したことで知られるパレスチナのポップシン
ガー。1989年ガザで生まれ、その姿は、2016年
の映画「歌にのった少年」の主人公として

おいしいパレスチナ



これは、パレスチナと中東で家族のお気に入りです。シンプルで栄養価の高い食事は、夏は新鮮な食材を使って、冬は冷凍豆と缶詰のトマトを使って調理できます。免疫力を高めるビタミンやミネラルが豊富に含まれています。

材料 (4人分)

- ・250gの冷凍インゲン (または入手可能な場合は新鮮な豆)
- ・中玉ねぎ1個
- ・にんにく3片
- ・オリーブオイル大さじ5
- ・刻んだトマトの缶 (または100gのトマトピューレと一握りの新鮮な砕いたトマト)
- ・塩とコショウ
- ・750mlのお湯

方法

オリーブオイルを厚手の鍋に入れ、玉ねぎのみじん切りを加え、中火で5分間黄金色になるまでかき混ぜます。にんにくを加えて1分ほどかき混ぜます。豆を加え、さらに3分間かき混ぜます。ピューレトマトを加え、2分間かき混ぜます。次に、一握りの砕いたトマトまたは高品質のイタリアントマトの缶全体を追加します (ピューレではありません)。塩こしょうを少しかき混ぜて加えます。750mlfのお湯を追加します。

豆が柔らかくなり、トマトが調理されるまで、15～20分間調理します。少し乾いたらお湯を少し加えます。

ご飯と一緒に召し上がりください。サーテン!

守ろう!オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。パレスチナの農民の土地を守る闘い、生活を守る闘いを支援します。集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合(UAWC)に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番): 〇九九店 (099)
預金種目: 当座
口座番号 0303500



5月23日福岡でガザ出身の中学生たちが停戦の訴え



東京大学の抗議キャンプ



5月19日京都大学での抗議行動



5月23日のアメリカ大使館前行動

今号の内容

直ちに停戦を！ 占領軍はガザから撤退せよ・・・1
 げラト国防相のネタニヤへの異議申し立て。・・・3
 パレスチナ市民団体の学生運動へのメッセージ・・・4
 パレスチナ人は抵抗を通して未来を築いている・・・6
 イスラエルの人権団体レイプに関する虚偽を認める・・・7
 ガザ虐殺はイスラエルをのけ者に・・・9
 イラン・パペ氏がテロで拘束される・・・11
 パレスチナ日誌・・・12
 パレスチナの愛した歌・・・14
 おいしいパレスチナ・・・15
 トピック・・・16



ハーバード大学の卒業式での抗議行動



5月15日、広島平和式典にイスラエルを招待しないように署名活動を行った



5月22日早稲田学術ボイコット運動、早稲田から国会、首相官邸までデモ